

第9章 発話とは：語用論（瀬楽亨）

<基本問題>

1. 冒頭の「月が綺麗ですね」について、本文とは異なるコンテキストを設定し、そのコンテキストにおける明意と暗意を述べなさい。

(解答例) コンテキスト：絵画コンクールで、月が輝く夜空の絵が特別賞に値するかを審査員に聞いたところ、審査員が穏やかな表情で「月が綺麗ですね」と述べた。

明意：絵に描かれた情景の中で特に月が綺麗である。

暗意：この絵画はコンクールの特別賞に値する。

なお、「月が綺麗ですね」の「ね」は上記の明意には反映されていない。これは、「ね」の意味が発話の真理条件に関わらないためである。関連性理論の枠組みでは、1つの可能性として、「ね」を高次明意（higher explicature）の構築に関わる表現として捉える分析が考えられる。

高次明意とは、命題に対する話者の態度や発話行為を反映した意味表示である。一般に、明意は、発話の真理条件に関わる基礎明意（basic explicature）と、高次明意に分けられる。何の断りもなく「明意」と言った場合は基礎明意を指すのが普通であり、本章の3.2節で取り上げたのも基礎明意である。高次明意については Wilson & Sperber（2012）の第7章に詳しい説明がある。

2. その暗意の構築プロセスを関連性の原理に従って説明しなさい。

(解答例) 審査員は意図明示的に発話しており、聞き手はその発話には最適な関連性があると期待する。話し手が穏やかな表情をしており、絵に描写されている月を褒めていることから、話し手は「この絵画はコンクールの特別賞に値する」という情報を伝達しているという解釈仮説を立てる。この解釈は審査員に向けられた質問の答えになっているため、関連性が非常に高い。そこで、聞き手はそれ以上の解釈仮説を検討せずに、この解釈仮説を採用する。「この絵画はコンクールの特別賞に値する」という命題は発話の字義的意味をもとに構築された意味ではないため、暗意と分析される。

<発展問題>

1. 次の「誰からも」の解釈について考え、その解釈にはどのような語用論的操作が関わるかを説明しなさい。

「この世には、誰からも好かれる人間なんていないものよ。だって、誰からも好かれる人間を嫌う人間が必ずいるでしょ」(『白い巨塔』下線は筆者)

(解答例) まず、「この世には」という表現があることから、1つめの「誰からも」は「この世の誰からも」という字義的意味を表していると思われるかもしれない。しかし、当該のコンテキストを踏まえると、ここで伝達されているのは「その人自身を除いた、この世の誰からも」という語用論的に調整された意味であると考えられる。

次に、2つめの「誰からも」については、概念の調整がより多く施されていると思われる。たとえば、1つの解釈として、「その人自身を除いた、世間一般の大多数の人から」のように捉えることができる。

どちらの場合でも、「誰からも」が符号化する概念を調整する語用論的操作が関わっているとと言える。